

集中ケア認定看護師会だより



発行 2010 年 3 月 発行人：中村香織 編集：福西由貴子、丁野美智

平成 21 年度 教育セミナー レポート

私達の多くは多くは臨床の現場で、看護の質の向上の為に院内外で他の職種と連携しながら、様々な研修の開催やケアを行います、その中で様々な困難や悩みにぶつかる事も多いのが現状です。

当会は、毎年会員と集中ケアに関心を持つ看護師を対象に、実践の場で役立つ内容をテーマにセミナーを開催していますが、昨年のアンケートでも認定の教育課程終了後は、系統的に「教育」について学ぶ機会が少ないなどの声がありました。その為、臨床での教育についての問題や悩みの解決の難しさを感じている人も多いと考え、本年は「クリティカルケア領域での成人教育を考える」をテーマに東京慈恵医科大学病院において平成 21 年 10 月 11 日に教育セミナーを開催いたしました。その内容を報告いたします。

講演：

聖マリアンナ医科大学の陣田先生は「看護現場学：いのちの学び」と題して、日々の看護を感性的認識としてさらに分析し、普遍的な本質的なものに淘汰する過程を支援する事で、看護の質の向上に役立つと言われました。

臨床での学習支援システムの一例として、聖マリアンナ大学病院のナレッジ交換会を紹介されました。「知の引き出し役」が、ナレッジワーカー：「出来る看護師」として同僚から推薦された看護師から、「当たり前になっている」ケアを聞き出し、より深めさせて発表させることで、交換会に参加したスタッフだけでなく、ナレッジワーカー自身も成長するという効果を得られるそうです。様々な教育の方法があり、認定看護師もその一つであること、「認定看護師」の資格が役立つのではなく、様々な形で役立てるのが専門家であると話されました。

神奈川県立足柄病院の興良先生からは、興良先生は、「どうする現任教育 教育から学びへのパラダイムシフト」と題して話されました。「教育」education の語源から述べられ、主体は本人であり教育者は環境であること、認定看護師は役割モデルと言われるが、成人教育では、学ぶテーマを選ぶことが特徴で、教育者をモデルにするかどうかは学習者次第であると述べられました。指導をする教育者も同じ施設内で指導されていて、これには指導者の経験知が含まれるが、学習者の得る結果は学習者の経験と needs によって変化すると話されました。認定看護師は、施設が自分に何を望んでいるか、それを理解していないと意味無く疲弊するだけでなく、現場の needs からは遠ざかる。院内研修は専門職としての能力向上だけでなく、各施設での看護の質を上げる事で所属施設への寄与意識の向上も含まれるとし、その事も考えて研修のデザインを考えていく必要があると話されました。

社会医療法人愛仁会本部の内藤先生からは、内藤先生は「看護専門職の成人教育で大切にしたいこと」をテーマに、高齢者の増加から将来来る大量死の時代にそれらの人々を病院で看取るマンパワーの必要性、新卒看護師の早期退職など、医療を取り巻く社会情勢の背景を考える必要を述べられました。

看護は対象の生命、生活、人生に深く関わる専門職であり、手術のガーゼ遺残や、ご家族の看護経験の例を挙げながら、患者、家族の権利に対する理解と実践はまだまだ堵についたばかりだと話されました。

シンポジウム：

シンポジウムでは第一線で活躍している集中ケア認定看護師の方々に教育についての体験をお話頂き、その後、当日行った現場の教育についての悩みに関するアンケート結果を元に、ディスカッションを行いました。アンケートでは、「自分への気づき」への働きかけ、中堅・ベテランの学びをどの様にするかという回答が多くありました。

神戸医科大学付属病院の山岡さんは、新人が多く中堅層への負担が重く中堅看護師への教育支援についての取り組みについて、日本赤十字社和歌山医療センターの吹田さんは、新人看護師への教育が 4 年目以上の看護師に影響を与えたこと、京都大学病院の平松さんは、新規配属者に対する配慮を話されました。

浜松赤十字病院の高橋さんは、救急病棟開設に向けての教育についての取り組みと課題について話されました。座長が、中堅層の暗黙知を、どうやって経験年数の少ない人達に引き継ぐのか、スタッフのモチベーションを維持していく為の方法について意見を求めました。

高橋さんは、中堅・ベテランが素晴らしいケアをしているという自覚が出来る様な係わり、エビデンスに対する意識付け、問題解決への話し合いなどが重要と話され、平松さんからは、中堅用の教育コースの活用もあるが、ベテランの知を伝えるのは難しいなどと話されました。吹田さんからは、院内全体での教育へ取り組むことでの成果や成功体験の効果を話された。山岡さんは、中堅層は関心を持った者以外は参加が少なく、殆ど中途採用者で以前のやり方を変えさせる事は困難であるなどの問題はあるが、そこに引っ張られない様に声掛けをしていると話されました。

コメンテーターの興良先生から、基本的には新人から中堅・ベテランへの過程で、望まれているスキルの変化を自分で理解し、自分で学びを選べる環境を用意するのが大切であること、中堅に対する動機付けはどの施設でも問題で、専門職として目標を見失う事を看護界はどうするか、技術的にも重要だが、同時に倫理的問題、生活者として命をどう考えるかという視点を失わないでほしい、中堅の持つ力を自覚させて対象に返していく事が認定看護師、管理者の役割ではないのかと話されました。

最後に、座長から集中ケアは指導の部分が多い領域であり、このテーマを掘り下げる事は大切。認定看護師は学びの支援者として行動していけば良いのではないかとまとめ、今後も継続して考えていくべき課題である事を確認して会を終了しました。

認定看護師が役割モデルとして関わっていく必要性は理解していても、なかなかその考えを具現化出来ない中で模索している状況の中で、「“モデル”にするかしないかは学習者次第」との興良先生のお話は会場に参加した認定看護師達の心の重しを取り除いて頂いた様で、肯きや笑顔が見られました。又、中堅層へのアプローチの難しさが改めて浮き彫りとなりました。会場ですぐ解決に繋がる出来る方法は見つけ出す事は出来ませんでした。現場で共通して教育指導に当たる立場の認定看護師が、どの施設でも共通した問題であると再認識し、「自分への気づき」、「暗黙知」など今後の取り組みのきっかけとなるキーワードを持って帰られたのではないだろうかと感じました。

今年のセミナー企画

平成 22 年度のセミナーは、10 月に肝臓と、腎臓のフィジカルアセスメントをテーマに、大阪で開催する予定です。ご期待下さい



平成 20 年度の会員入会状況

現在当会の会員数は 312 名となりました。(平成 22 年 2 月 1 日現在)。日本看護協会に登録されている集中ケア認定看護師が 464 名ですから、67%の方が入会している事になります。

今後共、様々な企画で皆様のご期待に添える様に努力すると共に、我々集中ケア認定看護師と一般の方の架け橋となる役目を果たしていく所存です。今後共、皆様の集中ケア認定看護師会を宜しくお願い申し上げます。

集中ケア認定看護師会ホームページ：<http://www.icu-cen.jp/>

